

2019年12月23日
株式会社日本政策金融公庫
総合研究所

事業の経営に充てる時間が週35時間未満のパートタイム起業家※が全体の約8割

～「2019年度起業と起業意識に関する調査」アンケート結果の概要～

本調査では、起業した人を働く時間に応じて分析したほか、まだ起業していない人にも焦点を当てました。また、自ら事業を始めているにもかかわらず、事業経営者との認識をもたない人も、起業家と位置づけて調査しました。主な調査結果と調査の要領は以下のとおりです。

※本調査では、現在経営している事業に充てている時間が1週間当たり35時間未満である人を「パートタイム起業家」、同35時間以上である人を「起業家」と定義している。

<主な調査結果>

1 パートタイム起業家が全体の約8割を占める(本文2ページ、4ページ)

2014年以降に起業した人のうち、事業に充てる時間が1週間当たり35時間未満の「パートタイム起業家」は78.1%、同35時間以上の「起業家」は21.9%を占める。パートタイム起業家は起業家に比べて若年層や女性の割合が高い。

2 パートタイム起業家の約半数が現在も勤務しながら事業を行っている(本文8ページ)

パートタイム起業家は、「現在も勤務しながら事業を行っている」人が半数を超え、「勤務しながら事業を始めたが、現在は勤務を辞め、事業だけを行っている」人を合わせると約6割に上る。起業家は、「勤務を辞めてから事業を始めた」人が6割を超えるが、「勤務しながら起業した」人も約2割を占める。

3 少額で開業する割合が高く、借入する人は少ない(本文11ページ、14ページ)

少額の資金で起業する人が多く、特にパートタイム起業家でその傾向が顕著である。起業家、パートタイム起業家ともに、9割近くが起業時に金融機関から借入をしていない。また、売上規模は、パートタイム起業家の約9割、起業家の5割超が月商「50万円未満」と小さいが、いずれも黒字基調の割合が高い。

4 自己資金不足と失敗時のリスクの大きさが起業に踏み切れない大きな理由(本文20ページ、21ページ)

起業関心層の多くは、自己資金の不足や資金的な損失リスクを理由に起業に踏み切れずにいる。起業関心層を起業家として顕在化させるためには、資金面のリスクや起業家の実態について正確な情報を提供し、起業関心層の不安を解消していくことが重要である。

<調査の要領> ・調査時点:2019年9月
・調査方法:インターネットによるアンケート
・調査対象:全国の18歳から69歳までの男女
・回収数:5万9,596人

*本調査の詳細につきましては、[こちら](#)をご覧ください

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所 小企業研究第一グループ TEL 03-3270-1687(担当:青山、桑本)
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー